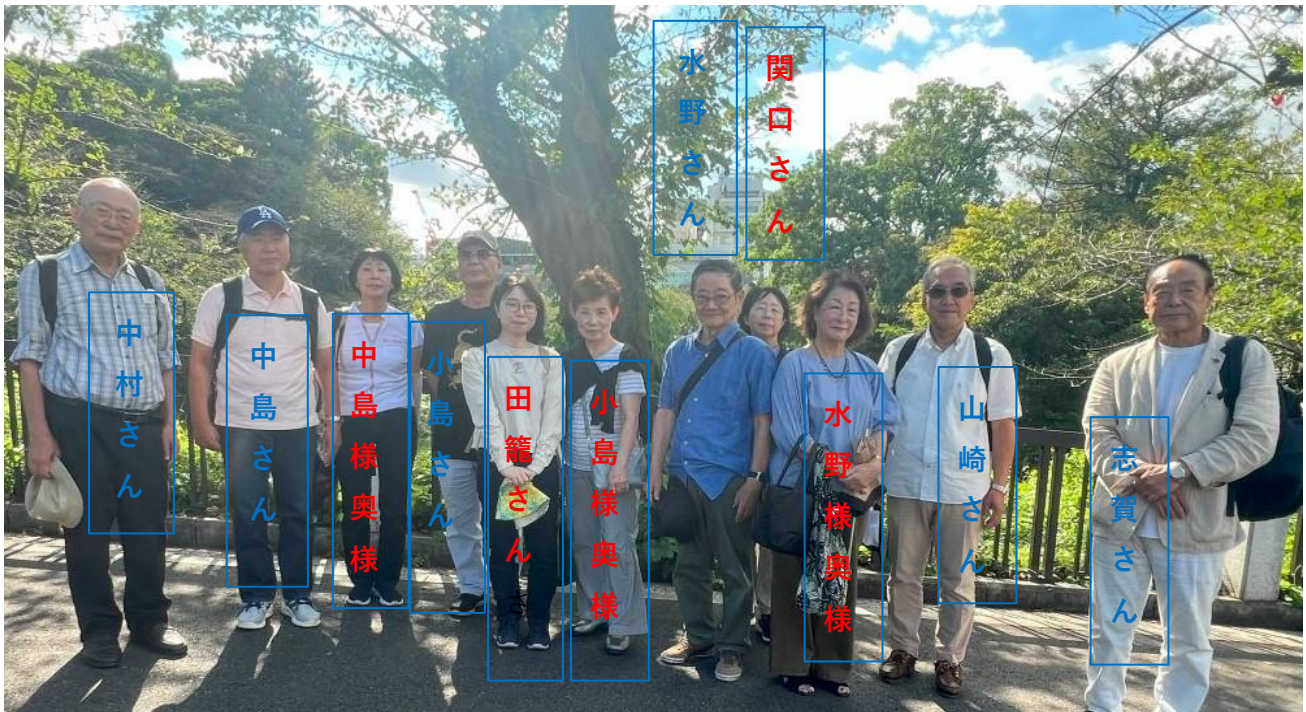


## 2024.9.23 西東京稲門会 散策の会 玉川上水と江戸城は武蔵野台地のへり 報告書

2024.9.27 馬道

やっと夏の終焉を実感する晴、弱風の中12名様のご参加をいただきました。何よりも新入会員の田籠尚子さんがご参加され女性の方のご参加も多く、秋の空のごとく華やかな散策でした。

定時に高田馬場より九段下駅に移動。田安門前で田籠さんにお名前を知っていただくよう写真を撮り入る。早々に終日続く私の迷惑な講釈が始まり「枳形門」は周囲から敵をせん滅させるために仕組まれた門であることをご説明した。 ↓参加者様のお名前と写真 逆光多謝、他の写真で



今回のテーマである「へり」を実感いただこうと武道館前から千鳥ヶ淵を望む高台に登り上から春は桜の名所を眼下に望む。北の丸は、田安家清水家跡は、明治以降近衛師団が置かれ現在残る池などは戦後の造成だが登った怡和園(いわえん)は兵隊さんに「飲み和らぐ」ために作られたもの山を降り近衛師団司令本部の建物を外観だけ望む。内部の近代美術館は金沢市へ2021年移転済代官町を通り、英国大使館前で記念写真を撮り、玉川上水の終点「半蔵門」前に到着。

多摩川の羽村取水堰から43km標高差92mを流れ半蔵門(標高29m)から江戸城を通り市街に流れ100万人の飲料水を給水した。明治中期まで続く江戸・東京を形造った大動脈である。

半蔵門に入り、乾濠のへりを流れほとんど開かずの門である北桔橋(きたはねばし)門を逆サイホン方式を使い 水の標高を稼いだ。(この高さで江戸市中にどれだけ水を届けられるか)

演劇博物館、旧図書館を設計した**今井兼次**設計の桃華楽堂(とうかがくどう)を眺め、天守台へ。

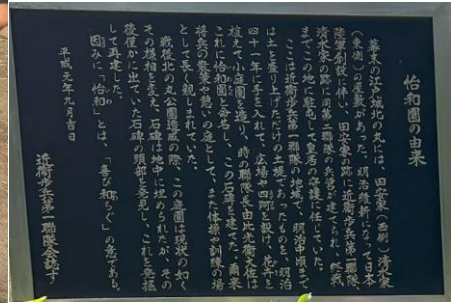
①眺める景色の芝生が**元々の家康の江戸城**であること ②江戸城自体は**武蔵野台地のへり**である

③東京駅から銀座辺りは「**江戸前島**」が存在し日比谷入り江が迫り駿河台にあった神田山を崩し海を埋めたことなどを説明した。(外様大名の屋敷が多く藩の財政を困窮させる目的でした)

芝生を通り中の門へ下り江戸城のへりを見上げ旧竹橋の位置を確認し高田馬場駅に戻り解散。

田籠さんは、残念ながら欠席でしたが皆さんはいつもの清龍で堪能し散会となりました。

【写真報告書】



怡和園(いわのえん)から望む桜の名所 千鳥ヶ淵を望む



↑北の丸公園を歩く





←旧近衛師団司令本部  
東京国立近代美術館工芸館(金沢市に移転済)

↓全景





 家康入府時は千鳥ヶ淵川がこの方向に流れ北の丸と本丸は分断されていた

 樹林の中を半蔵門から北桔橋門へ向かって玉川上水が流れていたが今は見学できない(昔は半蔵門から出入りできた)



英国大使館前で記念写真(私はエリザベス女王の献花に訪れ記帳した、この場はお花でいっぱい)



↑北桔橋(きたはねばし)門は跳ね上げ式で常に閉鎖  
その下を玉川上水の樋が通り逆サイホンで水を上げた

半蔵門から北桔橋門へ向かう

■ 玉川上水の石樋(一尺×一尺ほど)

各図とも  
矢印の方向へ水が  
流れる。  
  
a は水の場合、  
大気圧の関係から  
約10m以下。

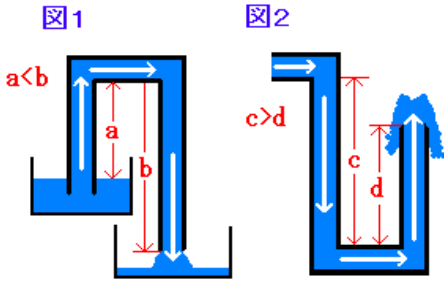
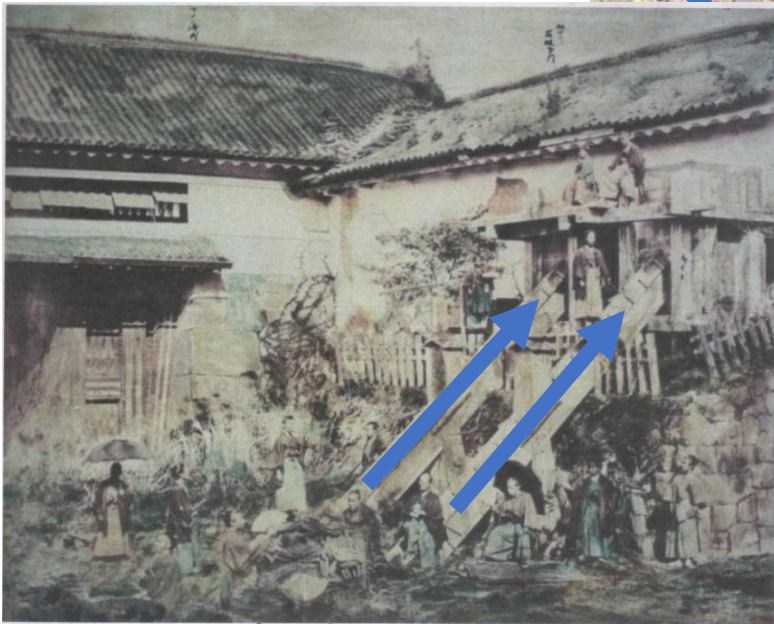
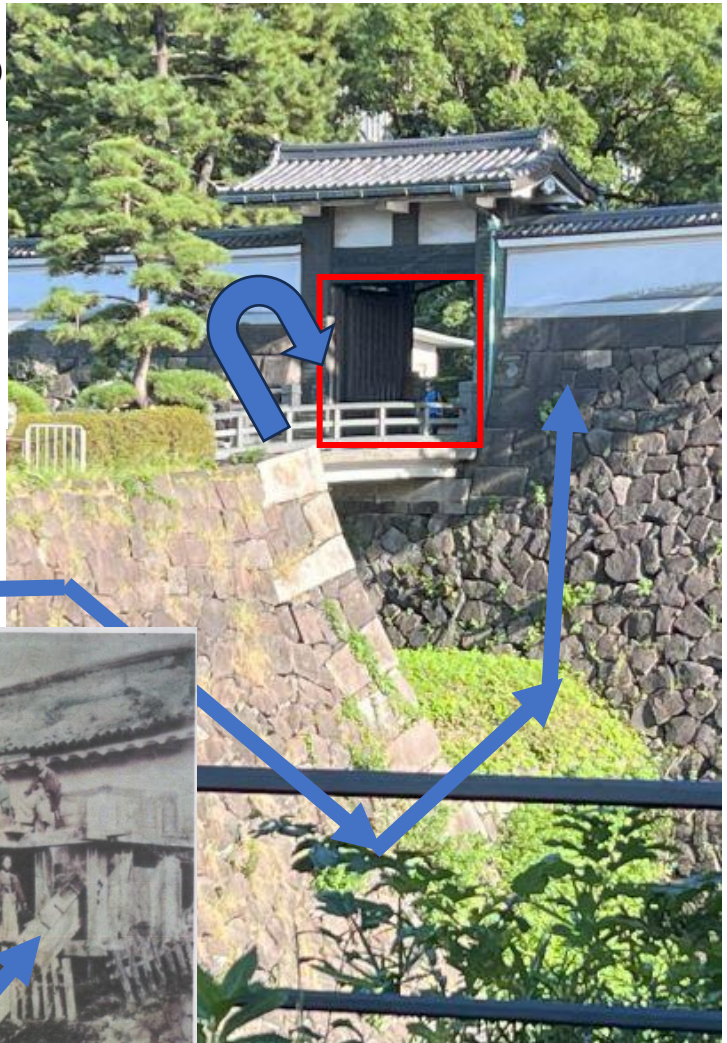


図2逆サイホン説明図 兼六園の噴水はコレ  
図1サイホン説明図 aは水は7~8m上がる  
↓ご案内文中の写真は江戸末期の北桔橋門  
玉川上水は「陽水」として樋を登っていた



サイホンおよび逆サイホンの原理は 玉川上水の流れる地形により高低差を乗り越える多くの場所で利用されていました



天守台の前で記念写真(天守台の上で撮るべきでした)

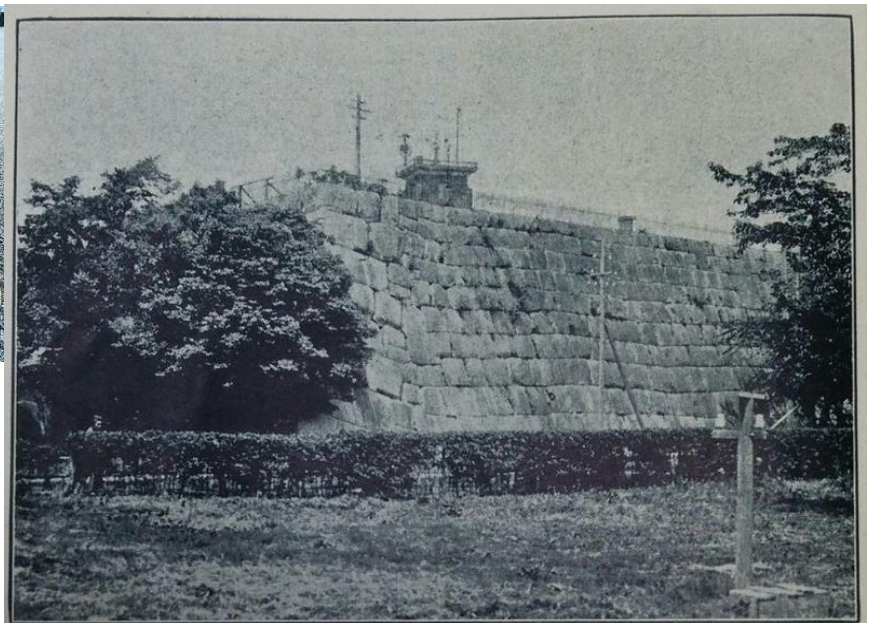
\* この天守台は明暦の大火後に加賀藩にて積上げられ天守閣は一度も建築されていません。広島の花崗岩が白く見え、黒い岩は伊豆岩で明暦の大火（1657年）で焼けた石は見えない部分へ保科正之の助言でこの天守台には、一度も天守閣は建てられていない。

【天守台は、明治以降は気象台が置かれ、戦時中は高射機関砲が置かれた】



測量の三角点を示す  
印が天守台の北東の  
角に今も残る  
海拔29.7m

→天守台に雨量計風量計など



圖の臺計力風内構臺象氣央中

\* 戦時中は、天守台には高射機関砲が六基置かれた(本丸南東部の石垣の上にも多数設置された)



↑ 皇居の芝(本丸跡)を歩き大手門への坂を下る。まさに武蔵野台地の端っこ「へり」を下った。



江戸末期の中之門の  
写真 傘をさし護衛と  
はのんびりしたものだ

↑ 同じ位置から撮った  
今の中之門跡  
敷石に柱の跡が残る



【今回の散策の結論】

江戸初期の玉川上水は、江戸の地形を生かして作られています。

そして、江戸城も江戸の街も水が流れるように作られています。従いまして、江戸の街も地形を生かし「地の利」を生かした造りです。

幸に、関東大震災、第二次世界大戦と何度も震災復興のチャンスはありましたが、お金もなくそのままの土地利用(金融地は金融地、商業地は商業地など)を今に伝えています。

**東京の街は、江戸時代の道をそのまま今も歩いているのです。**

**例えば、銀座の中央通りは、家康入府時の江戸前島の一番高いところです。**

【次回以降】 (これからも江戸~東京編は 続けます)

\* 集合駅から**散策を開始する場所で「点呼」**をお願い致します。私もまだすべての方が解らないのですが、シンガリを務めた経験から「あのんだれ?」とよく聞かれます。

10月22日(火)…金子さんからいただいた本にある「**東京唯一の国宝建築**」東村山市13時田無(予)

11月24日(日)…飲み会途中では23日(土)と申しましたがラグビー早慶戦と同日で変更予定です。



楽しく飲み 語らい 散会となりました



【俳句】

志賀様			馬道		
			田籠さん	江戸城天守台	玉川上水
千鳥ヶ淵水の濁りて秋暑し	緑道の土手に群れ翔ぶ秋あかね	天高し治水の成りて江戸開府	秋の会乙女の笑顔初参加	草の花我の天下か天守台	秋の空十里流るる江戸の水





追加資料① 小島さんが送ってくれました。

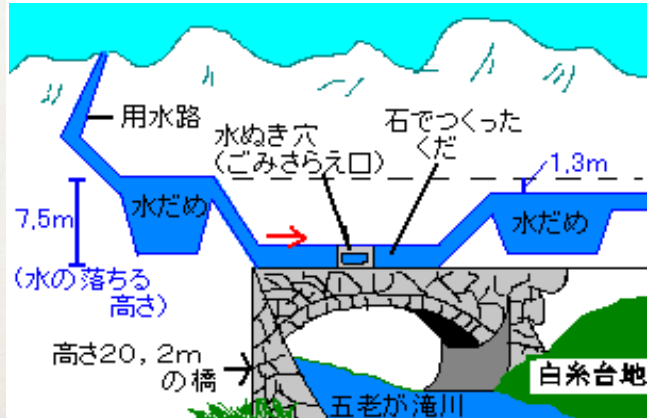
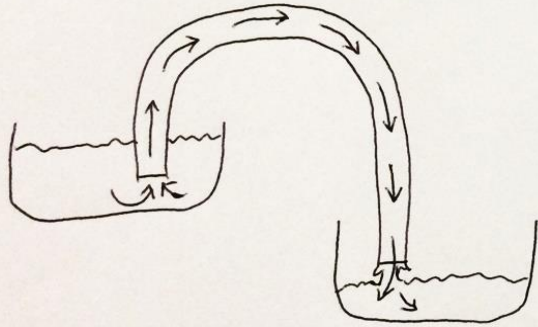


私も若い頃から女性に囲まれるのは慣れていますが(失言多謝)いつになっても美人の前は緊張する  
一句：秋の花 美女に囲まれ 我忘れ

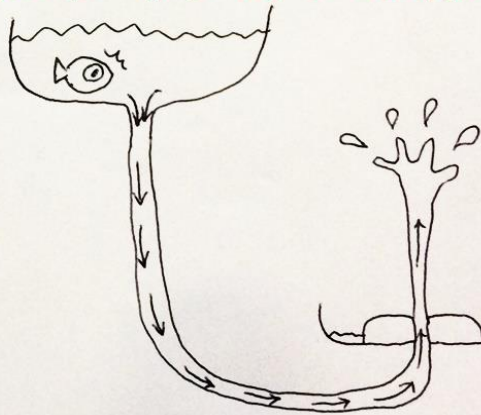


追加資料②

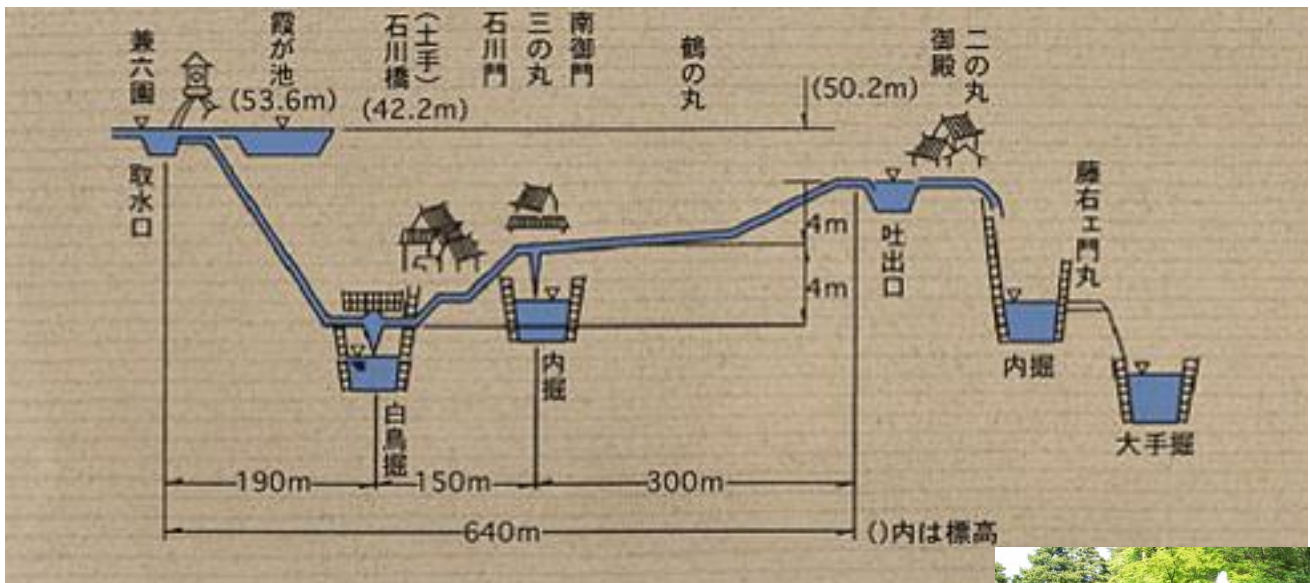
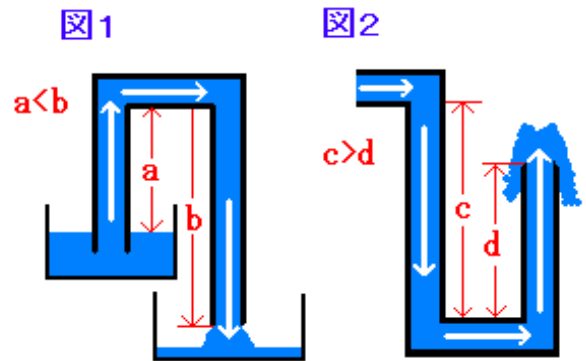
## サイフォンの原理



## 逆サイフォンの原理



各図とも矢印の方向へ水が流れる。  
 a は水の場合、大気圧の関係から約10m以下。



↑ 金沢兼六園の断面

